別紙様式２（高）

令和２年度　県立大子清流高等学校自己評価表

<table>
<tr><td>目指す学校像</td><td colspan="3">人間尊重の精神を基盤に，社会の変化に主体的に対応できる，個性的で創造性や国際性に富む，心豊かな人間を育成する。
〇一人ひとりの生徒を大切にし，対話を基本としたきめ細かな指導を行う学校
〇自分の将来を深く考え，自分で進路実現ができる能力を育む学校
〇地域と共生し，地方創生に対応した教育を行う学校</td></tr>
<tr><td>昨年度の成果と課題</td><td>重点項目</td><td>重点目標</td><td>達成状況</td></tr>
<tr><td rowspan="2">大子一高・大子二高の歴史と伝統を引き継いで誕生した本校は，昨年度第 14 回目の卒業生を送り出し，大学進学者８人を始めとし，進学･就職に良好な実績を残すことができた。進路希望を実現できる確かな学力の育成に向け，平成 29 年度から継続して行っている「主体的･対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取り組みを一層推進し，生徒の学習意欲の向上に繋げている。しかし，部活動においては，生徒数の減少により，存続が危ぶまれる部もあるため，部活動の再編を図るなど，さらなる活性化が求められる。
また，開かれた学校づくりに向けた，ホームページの充実，「清流だより」の配布等を行っているが，地域，県内，県外の中学生・保護者への浸透はまだまだ十分ではない。急激な中学校卒業生徒数減少の中，本年度も昨年同様に地元大子町出身者の過半数の志願を得られなかった。継続的な「清流だより」の配付，中学校教員，塾担当者等への積極的な説明，情報発信に努め，本校の良さを理解してもらい，地元大子町及び近隣市町村からの志願者を増やしていく必要がある。「地域に根ざした，進路希望がかなえられる学校」を合い言葉にした学校づくりに向け，職員で知恵を出し合い，１つの目標に向けて最善を尽くす体制をつくり，「生徒のために」みんなで取り組んでいく学校文化の構築を目指していく。</td><td>確かな学力を育む，学習指導の推進</td><td>●　生徒の主体的な学習態度の育成
・生きて働く「知識・技能」の習得と「主体的，対話的で深い学び（アクティブラーニング）」，「学習意欲の喚起」に向けた授業改善と研修の推進を図る。
・各教科・科目等の特性に応じた言語活動の充実と教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。
・課外授業への参加促進と，家庭学習の習慣化（ClAssi の活用等）を図る。
●　学習指導の充実
・基礎学力を充実させ，夢を実現できる確かな学力の育成を図る。
・地元にいて国公立大学等に進学できる授業，課外授業等を推進する。
・農林科学科の特性に対応した組織的，系統的な指導体制を構築し，魅力ある実習・学習の充実と課題解決能力を向上させる課題研究を実践する。
・指導の充実や教育の保証に結びつく観点別学習状況評価実施の推進を図る。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>豊かな心，健やかな体を育む特別活動，生徒指導の推進</td><td>●　道徳教育・特別活動の充実
・探究活動を取り入れた「道徳」の実施や，生徒会活動，各部・各種委員会活動の活性化をとおし，「協働する力」や「健やかな体」，「命の大切さ」や「豊かな心」を育む。
・勤労体験，スポーツ・ボランティア活動などを推進して「他人を思いやる心」を育む。
・キャリア・パスポートの活用により主体性や体験したことや考えたことを表現する力の向上を図る。
●　生徒指導の充実
・生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。
・生徒面談等を通した生徒理解の推進と，心に課題を抱えた生徒に対する生徒相談，カウンセリングの充実を図る。</td><td>A</td></tr>
</table>

	時代の変化，グローバル社会に対応できる教育，進路指導の推進	●　進路指導の充実 ・生徒の各種進路希望に対応できる，組織的，体系的なキャリア教育の充実を図る。 ・地元にいて国公立大学等に進学できる進路指導体制の充実を図る。 ・企業訪問・大学見学会・講演会等を通して，望ましい職業・勤労観の育成を図る。 ●　国際教育等の充実 ・タイ王国カセサート大学付属校との国際交流事業等の充実と，事業を活用した異文化 ・自国文化理解教育を推進する。 ・グローバル社会で活躍できる多様性の受容と挑戦心の育成を図る。	A
	保護者・地域との連携及び本校教育活動についての情報発信の推進	●　保護者・地域・小中学校等との連携や交流の充実 ・保護者や地域の声の把握に努めるとともに，大子町，地域関係団体等との連携を推進し，地域の教育力の活用を図る（学校設定科目「未来探究」等）。 ・学校説明会の充実とともに，積極的な学校公開の実践を図る。 ・チャレンジプロジェクト等，地域や小中学校との交流を積極的に行い，地域に開かれた学校づくりを進める。 ●　教育活動等の情報発信の推進 ・「清流だより」「学校説明会」「ホームページ」等の充実を図り，本校の魅力ある教育活動を発信する（「清流だより」の町内中学生への配付等）。 ・継続的な中学校訪問等を通して，本校の魅力ある教育活動の情報発信を図る。	A
	特別支援教育の充実	・生徒理解と教育的ニーズに応じた個別支援の充実を図る。 ・インクルーシブ教育の実現に向けた，ユニバーサルデザイン化と関係専門機関との連携協働を推進する。	A
	働き方改革の実践	・教員一人ひとりが，働き方への意識改革を行い，長時間労働の改善に向けて仕事の仕分けや効率化を図る。また，時差出勤や積極的な休暇の取得など，働き方改革に取組みやすい体制づくりに努める。	B

別紙様式２（高）

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	適切な学習評価の実施。	授業ごとの学習目標の設定と生徒による授業の振り返りを実施する。	B	A	・タブレット、電子黒板を利用した授業の研究。 ・新学習指導要領の教科の研究
		教科内研修の機会を増やし観点別評価の理解を深める。	A		
	伝え合う力を育てる。	グループワークや発表等を通して他者に考えを伝えると共に他者の考えを傾聴する時間を設ける。	A		
	進路を意識した授業	プレゼンテーションの準備等を通して社会に出た際に必要な情報選択能力や論理的思考力を養わせる。	A		
		志望理由書など文章の添削指導や面接指導を通して，生徒の志望進路実現に努める。	A		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	学科・系列・クラス等の実態に合わせた授業を行う。	A	B	・新設された科目の探求を開始する。 ・タブレット等ＩＣＴ教材を適切に利用した授業実践の準備をする。
		生徒の進路に応じた課外授業の充実に努める。	A		
	学習指導法の研究・実践に努める。	副教材・視聴覚教材・実物教材を効果的に利用した授業を展開する。	A		
		作業的・体験的な学習や言語活動を取り入れることで,「主体的，対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組む。	B		
		他教科との情報交換や情報共有を活性化させ，教科横断的な授業を展開する。	B		
数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別学習を展開し，生徒の能力に応じた授業を行う。	A	B	・数学の理解を深めるためＩＣＴ活用方法の検討 ・数学検定の合格率の向上 ・習熟度別授業の実施 ・副教材の活用
		定期テストに向けた補習を行い，基礎学力の定着を図る。	B		
		定期的に課題を課して，家庭学習を通じての振り返り学習を促す指導を行う。	A		
	進路指導の充実	進路に応じた課外を継続して実施する。	A		
		大学・短大・専門学校・公務員などの試験問題を内容分析し，出題傾向等を研究する。	A		
		数学検定とそれに向けた課外を実施し，合格率を向上させる。	B		
	主体的・対話的で深い学びを実現させる教科指導の工夫	副教材の利用，多様な問題に取り組む。	B		
		校外で行われる研修などを通し，多彩な授業の教材研究に取り組む。	B		
		自ら考え他者と協力して学ぶ姿勢を身につけさせるため，ICT機器の活用やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる授業展開の工夫を行う。	B		
理科	基礎学力を定着させる。	授業後に振り返りや小テストを行うことで，基礎学力の定着を図りつつ，学習内容の定着を把握し，必要に応じて補習を実施するなど生きて働く「知識・技能」の習得を目指す。	A	A	・「思考力・判断力・表現力」を身につけさせるための指導方法を模索する。 ・共通テストに対応した学習指導をする。 ・ICT を積極的に活用した授業を行う。
		教員間の授業公開・参観，各種研究会への参加を通して，指導力の研鑽を積む。	A		
	生徒の学習意欲を喚起する授業を行う。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて，アクティブ・ラーニング型授業についての研修や相互の授業参観等を行い，「わかる授業」の実践を目指す。	B		
		日常生活や社会との関連を授業で取り扱うことで，社会の変化に対応できる「思考力・判断力・表現力」を身につけさせる。	B		
	自主学習の習慣化など，主体的に学ぶ態度を育成する。	副教材や配付資料などを精選することやClAssi による予習・復習の配信など，適切な課題を課すことで，自主学習を促進する。	B		
		実験・観察を通して，自然現象への興味・関心を高め，基本的な「実験・観察の技能」を習得させる。	A		

別紙様式２（高）

	さまざまな希望進路に応じた指導を行い確かな学力の育成を図る。	ＩＣＴ機器や動画等を活用した授業方法を研究し，生徒の授業理解の手助けとする。	A		
		大学進学希望者への平常時や長期休業中の課外を通して，さらに高い学力を身に付けさせる。	A		
保健体育	生徒の実態を把握した学習指導計画の充実を図る。	地域や学校の実態に即した学習内容および系統的な指導計画の工夫をする。	B	A	・新型コロナ感染対策を十分に行い、安全に体育活動を実施できた。しかし、種目が少なく生徒の活動意欲がややそがれたと感じた。 ・保健・体育実技も含め、リモートでもできる工夫をしていきたい。 ・生徒の意欲向上のため評価基準・方法をさらに研究していきたい。
		運動の喜びや楽しみを理解させ，内容の習熟に意欲的に取り組む指導計画の工夫をする。	B		
	健康で豊かなスポーツライフを育む評価の工夫を図る。	評価基準と評価方法の工夫と具現化する。	A		
	豊かなスポーツライフの基礎を培う体育学習の工夫を図る。	集団行動の指導を重視する。	A		
		自ら体力を高め，自発的に運動の学び方や技能の習得に取り組むような学習の工夫をする。	A		
	自らの健康を適切に管理し，改善していく実践力を培うための保健学習の充実を図る。	課題学習や調べ学習による自主的・自発的学習の促進をする。	B		
		多様な体験的，実践的学習の活用による学習の工夫をする。	A		
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	芸術の多様な領域・分野を扱いながら,生徒が主体的に取り組むことができる学習活動を計画・実施する。	A	B	・項目や領域の連続性を持った学習内容の立案を目指す。 ・新学習指導要領に対応した評価規準や評価方法を作り上げる。
	感性を高め，芸術の諸能力を伸ばす。	芸術に対するとらえ方や考え方を深化させたり，それらを自ら表現したりできる学習活動を工夫する。	B		
英語	英語への興味・関心を高める。	ＡＬＴと協力し，英語や異文化に触れる機会を多く設ける。	A	B	・自発的な家庭学習の習慣づけのための働きかけや工夫が必要である。 ・大学共通テストの対策を充実させる。
		積極的な辞書指導を行い，英語への興味関心を高める。	A		
	上級学校進学に必要な英語力を身につける。	クラスルームイングリッシュを多く使用する。	B		
		継続的な単語の週末課題や小テストの実施，副教材の効果的な使用によって自発的な学習意欲を高め，家庭学習を習慣づける。	A		
	コミュニケーション能力を育む。	ペアワークやグループワークを活用して，自分の表現したいことを相手に伝える練習をする。	A		
		自国の文化や興味のある事柄について，他者に伝えるための十分な知識を深める。	B		
		パフォーマンステストを年に４回実施する。	B		
	外部検定試験取得を目指す。	英検対策の課外を充実させ，卒業時２級保持者５名，準２級保持者 10 名を目指す。	B		
		卒業時全商英検３級保持者 10 名を目指す。	B		
家庭	日常生活に必要な知識と技術の習得を図る。	日常生活に活かせるような内容を設定し，実践的学習の充実を図る。	A	A	・生徒自身が自ら学ぶ意識や意欲が持てるよう学習内容
		生徒の実態に応じた授業や実験実習に努める。	A		

別紙様式２（高）

	体験学習の充実を図る。	幼稚園等での保育実習や外部講師によるマナー講座など体験学習の充実を図る。	B		の改善を図る。
	資格取得の促進を図る。	学科の特性を活かした資格取得のための指導を通して，関心・意欲を高める。	A		
福祉	基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	資格取得を目指し、基礎的・基本的な知識と技術を習得できるよう生徒一人ひとりに応じた授業を行う。	A	B	・学校や県 HP を活用し、福祉の広報活動を行う。 ・ICT を活用し、地域や社会福祉施設との連携を深める。 ・障害の理解を深めるために、特別支援学校や障害者施設との連携を図る。 •生徒の理解を深めるための授業や指導を工夫する。 •校外学習や施設実習の代替案を検討し、体験的・実践的な学習ができるようにする。
	生徒が主体的に学習できる学習活動の工夫を図る。	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニング型授業を取り入れ、生徒の「わかる授業」の実践を目指す。	B		
		施設での実習，ダイアログインザダークでの体験学習，国際福祉機器展見学会など，実践的な学習の充実を図る。	B		
	ICT 教育の充実を図る。	ＩＣＴ機器や動画等を活用した授業を展開することや,実習報告会の際にパワーポイント作製を通して,生徒に思考力・判断力・表現力を身につけさせる。	A		
	外部との連携を図る。	実習施設や地域団体、小中学校等との連携を深め、福祉教育を推進する。	B		
		地域の福祉について理解をし、地域に貢献できる場を作る。	A		
	学習環境の整備を図る。	季節の壁画など掲示物の創作活動，福祉棟の美化緑化活動を充実させ，生徒の感性を高める。	A		
	広報活動を強化する。	福祉系列通信を発行する。	B		
		学校や県 HP へ記事の掲載や各種広報誌等を通じ、広報活動の強化を図る。	A		
農林科学	農業・林業教育の充実と地域と連携した農業教育の推進に努める。	実践的・体験的な学習を通して，情報化社会に対応した魅力ある農業教育を推進する。	A	A	•地域の農林業に即した授業展開の導入ができた。今後も特産品の授業導入を行う。 •農業クラブ県大会が実施できなかった。 •地域農家と連携したインターンシップがじっしできなかった。 •ドローン講習など最新技術学習を導入できたので今後生徒に還元していきたい。 •圃場などの環境改善を進めていく。 ・演習林の整備が実施できた。
		農業学習の特質とプロジェクト学習の意義や進め方について理解させ，生徒の興味・関心を高める。	A		
		農林業の各分野について基礎的，基本的な知識と技術を習得させる。	A		
		農林業に関する幅広い資格取得環境を整える。	A		
		地域の農林業について理解をし，地域との連携を継続的かつ積極的に実施する。	B		
	農業クラブ活動を充実させる。	農業クラブの目的を理解し，学校生活の柱としての活動の場を整える。	B	A	
		様々な活動を通して科学性・社会性・指導性を高める。	A		
		体験的な学習を通してプロジェクト学習を活性化させ, 生徒の健全な心と生活態度を育成する。	A		
	職業人として，意欲的で人間性豊かな人材を育成する。	働くことやものづくりを通して，意欲的で人間性豊かな人材を育成する。	A	A	
		農林業の社会的な意義や役割についての理解を深め学習意欲の向上を図る。	A		
		地域の農林業について理解をし，地域との連携を継続的かつ積極的に実施する。	A		
	演習林及び圃場の管理と整備促進する。	安全な実験実習の環境（圃場・演習林）の整備を図る。	A	A	
		圃場の活用と農業機械学習の促進及び，圃場・演習林の活用と専用機械学習の促進を図る。	A		

別紙様式２（高）

教務	学力向上の為の体制づくりに努める。	授業時間確保	始業・終業のチャイムを教室・教場で聞く体制づくりと聞く姿勢づくりを行う	A	B	•授業公開週間が一部の職員だけが行っている。全体で取り組めるよう研究授業にするなど検討が必要である。 ・生徒が全員 PCを持つので、ClAssi の活用を含め、ICT に関する研修を充実させていく。 •受検者を増やすため広報の方法等について検討が必要。
			カット授業の均等化等により，進度の適正化を図る。	B		
		授業のスキルアップ	お互いの授業を公開することで，授業のスキルアップを図る。	B		
			学習指導の充実に繋がる観点別学習状況評価実施の推進を図る。	A		
		学習意欲の涵養	内容・教材等の工夫を通して，生徒の学ぶ意欲の増進を図る。	A		
		家庭学習の習慣化	家庭学習の習慣化を図るためにClAssi やオンライン教材の活用を推進する。	C		
	広報活動の活発化を図る。		HP，ポスター，学校だより「清流」，クリヤーファイル、学校案内等の充実を図る。	A		
	職員室の整理整頓を図る。		職員室をより使いやすい環境にし，仕事の能率向上を図る。	A		
	情報システム利用の活発化を図る。		ICT 用を活発化し、教員のスキルアップを図る。	A		
生徒指導	生徒の実態を把握した生徒指導体制の充実を図る。		いじめ，自殺，不登校，中途退学，暴力行為等の問題行動の未然防止と組織的かつ迅速な対応に努める。	A	B	・服装・頭髪その他学校の規則をわかりやすく記載した用紙を教室掲示し、生徒に説明できたので次年度も作成したい。 •生徒に対して同一の指導ができように教職員でさらに、共通理解を図りたい。 •検討を重ね内規検討を進めることができた。また、特別指導の実施内容も検討し、指導が成果のあるものにしていきたい。 •スクールカウンセラーと連携を取りながら生徒の不安解消を支援することができた。 •アンケート調査や面談等を通して、いじめ等生徒のトラブルを早期発見•早期対応をさらに図っていきたい。
			情報の共有化と共通理解による行動連携の充実を図る。	B		
	生徒の自己実現を促す指導・援助の充実を図る。		生徒が存在感や所属感を実感できる学級づくりの支援に努める。	B		
			生徒と教師，生徒相互の好ましい人間関係づくりの推進を図る。	A		
			生徒指導上の課題に対応した校内研修や事例研修等の実施に努める。	B		
	規範意識の高揚と公共マナーの向上を図る。		教師と生徒の日頃の人間的なふれあいの中で「ダメなことはダメ」の指導の徹底と自己抑制力の涵養を図る。	B		
			服装・頭髪など指導に対する共通理解の確立と指導の徹底を図る。	B		
			基本的生活習慣の定着（特に遅刻防止）とマナーアップに向けた取り組みの充実を図る。	A		
	教育相談の充実を図る。		生徒の内面に目を向け，一人ひとりの心身のよりよい発達を促す指導・援助の推進を図る。	A		
			生徒に応じた教育相談体制の構築を図る。	A		
			スクールカウンセラーやカウンセリングアドバイザーの活用を図る。	A		
	家庭や地域社会，関係機関との連携を図る。		学校と家庭，地域社会，関係機関との情報および行動の連携を図る。	A		
			校種間連携の充実を図る。	B		
	交通安全指導に努める。		バイクの実技講習・自転車点検・事故防止の啓発活動を図る。	A		
進路指導	生徒一人ひとりの進路目標実現のために適切な援助をする。		学年の担任団との連携を緊密にして進路指導を進める。	B	B	•コロナの影響に振り回されることなく、基本に即した就
			未来探求，インターンシップ等の学びを充実させて，職業観・勤労観を育成する。	B		

別紙様式２（高）

	地域の企業・事業所との連携をさらに密にする。	企業・事業所を継続的に訪問することで密な関係を構築・維持する。	B		職指導･進学指導を実践していきたい。 ・各学年との連携を密にし、生徒に有益な進路指導を行う。 ･ウェブ上での説明会や研修会に積極的に参加する。
		生徒参加型の行事への事前・事後指導を充実させる。	B		
	生徒・保護者およびクラス担任に適切な進路情報を提供する。	各学年団にふさわしい各種説明会および研修会の資料提供を行う。	B		
		進路指導部員の定例会議を実施し（月１回程度），情報を共有する。	A		
		定期的に「進路だより」を発行する（年 10 回）。	A		
特別活動	特別活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	各活動及び学校行事を見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るとともに,「他人を思いやる心」を育む。	A	A	コロナ禍において大きく計画を変更した行事が多かったが,生徒が主体となり柔軟な対応ができた。進路指導部や各学年と連携してキャリア･パスポートを活用することができた。
		減少した生徒数に見合った組織へと改変させるため、組織や行事等の精選や充実を図る。	A		
	集団活動を通し，よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的態度を育てる。	自他の個性を理解して尊重し，互いのよさや可能性を発揮し，よりよい人間関係を形成する。	A		
		地域や社会の課題を見いだし，主体的に集団や社会に参画し人間関係をよりよく形成するとともに，人としてのあり方を探求し自己実現を図ろうとする態度を養う。	B		
	キャリア・パスポートの活用を推進する。	主体的に目標を設定し学校生活を送る態度を養い，校内外の諸活動において体験したことや考えたことを表現する力の向上を図る。	B		
図　書	有用な図書購入により、学習室としての機能を高め、図書館の利用及び読書の推進・強化を図る。	幅広い分野からバランスを考え、社会や生徒に求められる選書を行う。	A	B	･学習センターとしての機能だけではなく､読書の場としての機能を促進する。 ･視聴覚資料を整備し､生徒や教員が幅広く利用できる環境を整える。 ･コロナ禍においても､図書委員の生徒が積極的に活動に参加し､楽しめるように工夫をする。
		希望図書の職員・生徒対象アンケートを年２回実施し，授業や進路実現に役立つ図書を購入する。	A		
	蔵書の整理・再登録と廃棄を行い，図書館を利用しやすくする。	新着図書を順次登録し，すぐに貸し出せるようにする。パソコン登録の済んでない図書については，登録を進める。	A		
	図書委員会活動の充実を図る。	図書委員を広報・ディスプレイなどの係に分けて活動を活性化させる。	B		
		図書委員の活動を委員の生徒の意見を取り入れて，生徒が利用しやすい図書館づくりを行う。	B		
	視聴覚指導の充実を図る。	視聴覚機材の整備及び保守点検を進め，活用を促進する。	B		
保健厚生	健康保持増進への意識を高める。	健康教育講話等の実施と事後指導を充実させる。	A	B	コロナ禍において､救急救命講習会や防犯訓練等､計画していたものが実施できなかった。来年度はこの状況の中でもどうしたら実施できるか検討していきたい。 ･清掃用具等備品の管理を見直していきたい。
		保健関係資料等を活用し，生徒の健康教育の充実に努める。	B		
	自他の生命を尊重する心を育むと共に，安全意識に対する能力を育てる。	防災訓練を実施し，災害時に対応出来る力をつける。	A		
		教職員対象の防犯訓練を実施する。			
		職員･生徒向けの救命救急講習会を実施する。			
	よりよい環境づくりのための整備と工夫に努める。	校内の環境美化･安全の啓発。	A		
		委員会活動において校内の環境美化に努める。	A		
渉外	学校と家庭の連携を図る。	ＰＴＡ総会・評議会・専門委員会，学年ＰＴＡ等運営の活性化に努める。	B		コロナの影響もあり、PTA

別紙様式２（高）

		会報「清流」の発行や保護者通知等，広報活動の充実に努める。	B		の集まりなど多くの活動が頓挫してしまい、文書での意見交換程度になってしまった。新たな活動方法の構築が必要であると強く感じた。
	関係機関や地域との連携を図る。	登校指導・巡回指導等，学校と家庭と地域社会が一体なって，生徒のマナーアップや規範意識等社会性の向上に努める。	B		
		関係機関や地域の声を聞き，生徒の健全育成に生かす。	B		
	ＰＴＡ会員の教育活動への積極的な参加を推進する。	学校行事や視察研修等，会員の積極的な参加を促し，会員相互の親睦を図るとともに，教育活動の一層の推進を図る。	B		
第１学年	良い生活習慣の確立をする。	公共の場において身だしなみを整え，挨拶を励行し，決まりと時間を守る生活の確立を指導する。	B	B	・進路目標を明確にさせる。 ・基礎学力の向上と成績上位層に対するさらなる学力向上に向けた取り組み。 ・資格取得について、積極的に取り組むための雰囲気作り。
	基礎学力の定着を図る。	学ぶことの重要性を意識させ，自ら学ぶ姿勢を育てる。	B		
		毎日の授業を大切に，集中して取組むことを習慣化させる。	B		
		課題等を出すことにより，毎日１時間以上の家庭学習を習慣化させる。	B		
	良い人間関係作りを図る。	部活動への入部や特別活動への積極的参加を奨励する。	B		
	思いやりの心を育てる。	ＨＲや学年集会で他者を理解し行動することの重要性を説く。また，ボランティア活動への参加を促す。	A		
	進路指導の充実を図る。	ＨＲや「産業社会と人間」で自己理解を深め，適切な系列選択を実現する。また，資格取得に努める。	A		
第２学年	基本的生活習慣を身につける	無遅刻・無早退・無欠席	B	A	
		公共マナーの遵守	A		
		基本的生活習慣の確立	A		
		清掃の徹底（教室の美化）	B		
	学習面	進路に対する意識づけ	A		
		家庭学習の習慣化	B		
		授業を受ける態度	A		
	その他	学校行事の充実	A		
		部活動や特別活動の充実	A		
第３学年	進路実現を図る。	朝，放課後，長期休業中の課外を充実し，学力の向上を目指す。	A	A	特になし
		家庭学習，早朝学習，放課後学習に計画的に自ら取り組む姿勢を持続し学力の向上を目指す。	B		
		進路ガイダンスを積極的に実施し，特に面接力を充実する。	B		
		就職，看護医療，大学進学模試へ積極的に取り組み，自己と進路先の理解を深める。	A		
	社会人への進化を図る。	公の場での服装，言葉遣いを確立する。	B		
		正しい判断で自立した行動ができるようにする。	B		
	高校生活集大成を図る。	最終学年として，学校行事，クラス行事に積極的に取り組み，自分たちの力で作り上げる。	A		

※　評価規準：　A:　たいへん良くできた　　B:　良くできた　　C：普通　　D: やや不十分　　E: 不十分